



マナビっつうしん

第 30号

令和4年 8月 3日(水)

市町村訪問 お世話になりました

夏の朝を涼しげに彩る朝顔が今年も美しい花を咲かせています。お元気でお過ごしでしょうか。5月23日に開始させていただいた市町村訪問は、7月14日をもちましてすべての日程を終了することができました。ご多用の中、対応して下さった担当者のみなさん、誠にありがとうございました。みなさんに直接お会いでき、対話できたこと、また、みなさんの温かなお人柄に触れさせていただいたこと、幸せな時間でした。どの市町村さんも、コロナ禍の中ですが、地域のみなさんのために創意工夫して事業を推進されている様子をお聞かせいただき、元気をいただきました。また、みなさんと写真撮影をさせていただきながら、本課は4名という少人数ですが、多くの担当者のみなさんにつながっていることを実感し、勇気をいただきました。どの市町村さんも景色が美しいすてきなふるさとで、また行きたいなと思うこの頃です。おいしいお店なども教えていただき感謝です。懇談を通して気づき、感じ、学ばせていただいたことを、今後の事業に活かしていきたいと思います。私たちはこれからも担当者のみなさんと伴走していきます。何かお困りのことなどありましたら、お気軽にご相談ください。

懇談の中で話題になったことやご質問いただいたこと、共有したいことなどを中心に、次のとおり分野毎でまとめましたのでご覧ください。引き続きお世話になりますが、よろしくお願ひします。



社会教育



【社会教育事業・公民館事業】

各市町村の担当者のみなさんのお話から、コロナ禍でストップしていた活動が再び動き始めている様子がかがえしました。さらに、今回のこの状況を好機ととらえ、コロナ前の状態に戻すのではなく、各種事業を見直し、より住民のニーズに合ったものにしていこう、という前向きなお話を聞くこともできました。

《例えばこんな取り組みをされています》

地域の自然や史跡について学ぶ講座をフィールドワーク中心に展開

「集うことにとられない」事業

ハイブリッドでの開催、ケーブルテレビの利用などそれに伴うPC、スマホ等のICT講座

人とのつながりや発表の場としての芸術・文化を大切に街づくり

小中学生向け、大人向け年代に合わせた市民講座や防災講座の開設



【コミュニティスクールに関わって】

まだまだ「学校の敷居が高い」という声は聞かれます。学校に地域の方の居場所としてボランティアルームを作ったり、社会教育委員や公民館の方が積極的に学校教育に関わったりすることで少しずつ、自然に地域の方が学校に入っていける雰囲気が出てきた、というお話も聞きました。今、できることから少しずつ進めてみてほしいと思います。また、国型CSの導入を考えている、というお話もあちこちで聞かれました。よりよい協働活動ができるようお手伝いしたいと思います。気軽に声をかけてくださいね。



社会人権教育



市町村訪問では、担当者の方に直接お会いして今年度の事業の説明をしていただきました。人権教育の歩みを止めずに、地域住民のあたたかなつながりが生まれるような取組を進めていただいていることがありがたかったです。市町村にはそれぞれの地域の魅力や特徴があります。それを活かしながら、さまざまな立場の方の人権が尊重される地域づくりを進めていただきたいと思います。

【各市町村で取組の例】

- 多世代がふれあい、交流できるような講座を企画し、関わり合いを通して人権意識を高める
- 在住されている外国人の方の文化（食や言語等）を紹介してもらい、交流を通じた関係づくり
- 学校の人権教育と連携をした事業（児童生徒の作品を公民館に展示する等）や講演会の実施
- 身近な人の大切さを改めて感じられるような映画上映会や人権に関するポスター展示

人権感覚を磨くためには、「協力的な活動」「参加的な活動」「体験的な活動」が効果的です。

担当者の方のスキルアップを図る目的で
 中信教育事務所が主催する講座もあります
 ので、ご参加をお待ちしております。

また社会人権教育担当指導主事がお役に
 立てる場がありましたら、お声掛けください。



生涯スポーツ振興



担当者の皆さんからお話しを伺った中で、課題と感じている点とその課題解決に向けて取り組んでいることについて紹介します。参考にいただければ幸いです。

【課題と課題解決の工夫】

◆◆◆コロナ禍で中止となっていたスポーツ行事(運動会 体育祭)などの再開の困難さ◆◆◆

「2年間やらなかったことで困ったことはなく住民から再開の必要性がないという声が多い」

「分館によっては高齢化や住民の減少によって参加者を募ることが困難な状況」

<課題解決の工夫>

○競技力や勝敗を重視した内容から、誰もができる、誰もが楽しめる、体験型、といったことをスポーツに親しむことを目的とした内容に変えている。

例) ニュースポーツの活用：ブースを設置して自由に体験 種目をニュースポーツに変える

ボッチャ大会：チームでの参加や個人参加者で当日チーム編成など柔軟に対応する

ジョグウォーク：ジョギング大会から名称変更し、順位はつけず記録証と参加賞を渡す

○みんなで創り上げるイベントにする。(数年かけてかたちにすることを前提にして)

- ・スポーツ推進委員、スポーツ協会、競技団体、スポーツ団体、総合型地域スポーツクラブなど、それぞれにブースを設け運営を依頼する。楽しむ、競技の普及などねらいはそれぞれ。出来る人が出来ることを。健康福祉部局とも連携して、血圧測定なども計画中。健康 DAY。